

平成 22年 5月 15日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2006 ～ 2009

課題番号：18330094

研究課題名(和文) フランス流通構造の変革と中小小売業の将来

研究課題名(英文) Dynamic French Distribution and Perspective of Small & Medium Retailers

研究代表者

田中道雄 (TANAKA MICHIO)

大阪学院大学・経営学部・教授

研究者番号：10248263

研究成果の概要(和文)：

本研究の成果として、第一にグローバル化する流通状況のもと、フランスの流通構造変化を明らかにし、そのなかで中小小売業であるマルシェの動向を眺めることで現代フランス流通の動向を把握したこと。第二に、こうした流通動向を把握したのち、視点をより広げ、流通とそれを取り巻く都市、交通、まちづくりそして文化の動き等を考察し、重層的に現代フランス流通とその環境を捉えたことである。

研究成果の概要(英文)：

We achieved two results in this research. Firstly, we discussed dynamic French distribution in the global context and obtained a good grasp of the perspective of small & medium retailers. Secondly, we broadly examined the situation and movement of the city, traffic and culture etc. As a result, we could grasp the essence of modern French distribution.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2007年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2008年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2009年度	3,300,000	990,000	4,290,000
年度			
総計	13,500,000	4,050,000	17,550,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・商学

キーワード：フランス流通、マルシェ、ラファラン法、経済近代化法、都市計画

1. 研究開始当初の背景

研究代表者田中道雄は、これまでも現代フ

ランスの流通と社会について、継続的に調査を重ねてきた。

フランスでは、流通の政策と現状とが大きい。

く関わっていることがよく知られている。わが国においても流通規制としての大店法を制定するに際し、モデルとなったいわゆるロワイエ法や大型店を徹底して制限しようとしたラファラン法などが存在したし、これらは形を変えて現在では経済近代化法などの関連政策として存在している。

こうした枠組みのなかで、フランス流通はわが国流通の先行指標の一つとしても捉えられる場合もある。

フランスにおける大規模流通企業と中小小売業の関係は、大規模流通企業がますますその市場占有率を伸ばす一方で、中小小売業は顕著な衰退を余儀なくされてきた。その意味では、大規模流通企業と中小小売業の勝負はすでについている。

しかしながら、その中でもしぶとく生き残っている中小小売業も少なくない。その生き残りの要因を知ることは、われわれに多くの示唆を与えるものであり、その実態を詳しく探ることは、今後のわが国流通の方向性を考察するにあたっても寄与するところが大きいと考えられたのである。

2. 研究の目的

当初の研究目的としては、まず大規模流通企業がなぜ大きなシェアを持つかについてフランスの流通構造を明らかにすることを目指した。と同時に、これら厳しい環境にも関わらず、その中で健闘する中小小売業の現状と将来像を探究することにポイントが置かれた。

それゆえ、INSEEを始めとする統計資料の入手はもとより、公刊されている書籍や各種資料によってフランス流通構造の実情を把握することに努めた。

それとともに、こうした競争のなかで中小小売業がどのような位置づけに置かれているのかを探るために、単なる統計的な把握に留まることなく、実体的に問題を捉えることをめざし、その対象としてフランスにおける中小小売業の代表的存在であるマルシェに焦点を絞り、その実態と方向性を明らかにすることを目的に研究を進めてきた。

3. 研究の方法

本研究では大きく分けて3つの方法で研究を進めてきた。

(1) フランスの現地調査を通しての資料収集ならびに研究人脈の形成

本研究では、フランス現地のマルシェ業界団体、フランスマルシェ商業者連合協議会(FNSCMF: フランスにおけるマルシェの全国団体であり、毎年、我々は団体事務局長と会合を持ってきた)、大学研究者(エクサン・プロヴァンス大学ジル・パッシェ教授ならびにポカ・クレール准教授等のマーケティング研究者)、経営コンサルティング関係の研究所(Dia-Mart: 流通研究ならびに実践で著名なC. デュクロック所長他)らとの継続的な接触によって、文献資料や統計では把握しにくいフランス流通の詳細と実態把握に努めてきた。

(2) 4回にわたるフランス流通セッションの開催

フランス現地調査による実態把握と並行して、わが国における代表的なフランス流通研究者ならびに流通を取り巻くフランスの都市計画、交通、まちづくり、行政、文化、社会等の研究者に呼びかけ、研究の初年度よりフランス流通セッションを年に1回開催してきた。

2010年の段階で、フランス流通セッションへの参加研究者は12名となり、毎年、行われるフランス流通セッションでは、各自がフランスに関する最新のテーマを発表し、フランス流通研究の水準向上を図ると同時に、研究者間の情報交流に努めてきた。

(3) 研究内容の対外的発表の充実

フランスの流通という限られた分野を対象とするだけに、限られた学会等で報告するだけでなく、こうした研究結果をできるだけ広く社会に還元するため、研究成果を積極的に公刊し、より一層の研究の発展を図るよう努力している。これらの成果は4. 研究成果に示すとおりであるが、今回の研究においても期間内に3冊のフランス関連著作を発表することが出来た。

こうした多面的な研究方法により、隣接分野の情報を互いに、かつ着実に入手しえることが出来、それによって周辺の理解が進んだ。結果として各自が自らの分野の蓄積を再吟味することが可能となり、制約されがちな情報入手がしやすくなった。これは、フランス流通研究においても、大きな成果につながったものと思われる。

4. 研究成果

今回の研究成果を簡単に述べれば、5つの流通グループによる70%に近い食品市場占有率の現実と、他方でマルシェにみられる中小小売業のしぶとい生き残りの活動がみられ、まさに競合と並存が両立しているのである。

各地の中心街で、かつては嫌われていたマルシェの存在が、町の賑わいと関係から近年は出店が歓迎されるようになってきたといわれる。それはわが国同様、郊外型の大型店による影響を都市中心部が大きく受けていることを示唆している。

ただ、こうした点は、常に流動的な要素を内包している。

というのは、サルコジ政権になってからの政策的な変動、とりわけ流通競争自由化の動きは、中小小売業にとっては、ますます厳しい経営環境を招来し、かつまたIT化の進展により、郡部での買い物形態が著しく変容し始めたからである。

それは、さまざまな流通機能の隘路の存在によって、辛くも生き残ってきた中小小売業の存立基盤を大きく揺るがすものとなっている。こうした点は、既に公刊した『フランスの流通』ならびに後述するように今次の科研費による成果として、公刊を予定し、現在印刷中の研究成果に詳しい。

今回の研究は、とりわけ、これまでのフランス流通研究の蓄積の上に成立したものであり、その成果に多くを負っている。

すなわち本研究以前に科研費を活用し実施された研究成果(研究代表者:白石善章「フランス流通の構造的変化と比較流通論的研究」2003年、課題番号11430020)をもとに、より広範な視点を取り入れ公刊された白石善章・田中道雄・栗田真樹編著『現代フランスの流通と社会』(ミネルヴァ書房、2003年)がある。

これを最初のステップとし、今次の調査成果の一部を付け加えて、より一歩を進めた形で、研究代表者田中道雄は現代フランス流通の分野では、わが国で初めての単著『フランスの流通——流通の歴史・政策とマルシェの経営——』(中央経済社、2007年)を世に問うた。

こうした蓄積により、当初の目的であったフランスの流通構造ならびに中小小売業の動向の一端が解明された。

さらに加えて、本研究を一層深化するものとして、フランス流通セッションに参加する専門家によって、各分野の専門的研究の集大

成を図ることを目指して、12名の共著『フランスの流通・都市文化(仮題)』(中央経済社)を2010年度上半期に出版予定(印刷中)である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

1. 田中道雄「フランス流通の現状と動向」『関西実践経営』査読無、第31号、2006年、pp. 1-12

2. 田中道雄「EUにおけるフランス流通」『関西実践経営』査読無、第32号、2006年、pp. 1-14

3. 田中道雄「歴史的経緯にみるフランス流通」『関西実践経営』査読無、第33号、2007年、pp. 1-10

4. 李為「フランスの文化政策と都市文化資本」『関西実践経営』査読無、第36号、2008年、pp. 67-76

[学会発表](計1件)

1. 田中道雄「フランスの流通」日仏経営学会、第51回全国大会、専修大学、2008年4月。

[図書](計3件)

1. 李為・白石善章・田中道雄『文化としての流通』同文館出版、2007年。

2. 田中道雄『フランスの流通——流通の歴史・政策とマルシェの経営——』中央経済社、2007年。

3. 田中道雄・白石善章・相原修・河野三郎編『フランスの流通と都市文化(仮題)』中央経済社、印刷中。

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中道雄 (TANAKA MICHIO)
大阪学院大学・経営学部・教授
研究者番号：10248263

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

白石善章 (SHIRAIISHI YOSHIAKI)
流通科学大学・名誉教授
研究者番号：99999999

栗田真樹 (KURITA MAKI)
流通科学大学・サービス産業学部・教授
研究者番号：10258262

李為 (LEE WEI)
京都産業大学・経営学部・准教授
研究者番号：00454471